

会 議 録

☐ 全部記録 ☒ 要点記録

1 会 議 名	第 2 回 姫路市すこやかセンターのあり方検討懇話会
2 開催日時	令和 7 年 1 2 月 2 2 日（月曜日） 1 5 時 3 0 分～1 7 時 0 0 分
3 開催場所	姫路市役所本庁舎 1 0 階 第 4 会議室
4 出席者又は欠席者名	出席者 6 名、事務局
5 傍聴の可否及び傍聴人数	傍聴可、傍聴人 5 人
6 議題又は案件及び結論等	姫路市すこやかセンターのあり方検討について
7 会議の全部内容又は進行記録	議事要点については別紙参照

事務局	開会（15：30）
事務局	挨拶
事務局	<p>配布資料の確認</p> <p>「会議次第」</p> <p>「姫路市すこやかセンターのあり方検討について」</p> <p>「参考資料」</p> <p>「名簿」</p> <p>「配席図」</p> <p>「開催要領」</p>
D委員	<p>本日は、2階 老人福祉センター事業、3階 子育て支援施設事業について、皆様にご審議いただく。事務局から、市の具体的な施策や取組内容の説明を受け、審議を進めていくので、それぞれのお立場や経験などから、忌憚ないご意見をいただき、姫路市にとって、より良い取組につながればと考えている。</p>
D委員	<p>それでは、会議次第により進めていきたい。</p> <p>本日の進行は、まず次第2について事務局から説明を受けた後、意見交換を行いたいと考えている。「次第2」の「第1回懇話会について及び老人福祉センター事業について」事務局から説明をお願いしたい。</p>
事務局	<p>次第2 第1回懇話会について及び老人福祉センター事業について</p> <p>資料説明</p> <p>資料1 姫路市すこやかセンターのあり方検討について</p> <p>①第1回懇話会について</p> <p>②老人福祉センター事業について</p>
D委員	<p>ただいまの事務局からの説明について、委員の皆様から、質問や意見をお願いしたい。</p>
D委員	<p><老人クラブ会員数が多い要因></p> <p>中核市の中でも、老人クラブの会員数が多いということは、非常に良いことだが、何か要因はあるのか。</p>

事務局	<p>正確な理由は不明だが、姫路市は自治会加入率が８割以上と非常に高いことが要因の一つと考えられる。地域にもよるとは思うが、比較的、自治会と老人クラブの連携がとれていると考えている。中核市で最も加入率が高い富山市も自治会加入率は８割を超えている。</p>
D委員	<p>姫路市では、老人クラブの加入率が高いという特徴を活かす仕組みづくりができればよいと感じる。先ほどの説明では、高齢者は増加しているが、加入者は減少しているとのことであった。高い組織率を、さらに高めるような取組が出来ればよいと思う。</p>
F委員	<p><高齢者の生きがい事業への老人クラブの関わりについて></p> <p>今回の論点としては、今までの１つの拠点で、高齢者の健康づくり・生きがい活動を進めてきており、今後もこれを続けるのか、もしくは、地域での関わりを多くする中で、高齢者の生きがいづくりを進めていくのか、いずれの施策に舵を切るかという点であると思う。</p> <p>老人クラブが減少している中で、今後、老人クラブ活動を高齢者の生きがいづくりの中核とすると、負担が増すのではないと思う。負担軽減の方策をいくつか示されているが、十分な支援となるのか、懸念がある。</p> <p>今後、総合事業の中では、現在、介護保険制度を利用していた方が、地域の通いの場や訪問にシフトしていくという方向性が示されているが、そこに、老人クラブの協力を求めていくにあたり、どのようなグランドデザインを持っているのか。</p>
事務局	<p>老人クラブの会員を増やしていく施策を目指している理由として、まずは、孤独・孤立、ひきこもりが、最も要介護リスクを高めるため、これらの方々が、老人クラブとつながることで、その活動を通して、介護予防に寄与すると考えている。</p> <p>今後、生産年齢人口が減少する中で介護人材が不足するため、元気な高齢者の方に、地域で協力する担い手として参加していただきたいとの思いもあるが、まずは、会員数が減少しているといっても、16 ページに示す本市の通いの場の種類のうち、3 万人弱と最も多い。老人クラブを活性化し、地域での活動や仲間づくりを進めていただきたい。</p>
F委員	<p>今、老人クラブ会員ではない方に、いかに会員となっただかくか、難しい課題である。また、地域活動の現場をみると、次の担い手がないという課題も抱えている。新たな会員となる方を増やし、新たな担い手となっただかくのが、理想ではあると思う。</p>

A委員	<p><用語の確認及び市老人クラブ連合会について></p> <p>資料の中で、「フレイル」という単語が用いられているが、どのような身体の状態なのか。</p>
F委員	<p>加齢により心身の機能が低下した状態を指す。</p>
A委員	<p>要支援の前の段階のようなイメージでよいのか。</p>
F委員	<p>そのとおりである。</p>
A委員	<p>承知した。すこやかセンターの2階に、市の老人クラブ連合会の事務局があるが、老人クラブ連合会の設置根拠はあるのか。</p>
事務局	<p>正確な根拠があるか、把握はできていないが、市では、老人クラブをまとめていただく団体として位置付けており、補助金を交付している。</p>
A委員	<p>事務所に常駐の職員の方はおられるのか。また、事務局執務室の使用料の取り扱いはどのようになっているのか。</p>
事務局	<p>複数名いる。</p> <p>使用料は減免の取り扱いとしている。</p>
A委員	<p>今後、老人クラブ活動を取りまとめる団体として、連合会の事務局が必要と考えられるが、すこやかセンターを廃止、大規模改修した場合、いずれであっても、移転が必要となるのではないのか。</p>
事務局	<p>市が老人クラブ連合会と意見交換をしながら、事務局の場所については検討していく。</p>
E委員	<p><通いの場の場所について></p> <p>通いの場の想定とされる公民館と市民センターの違いは何か。</p>
事務局	<p>8か所の市民センターはホールがあり、運動等も可能である。公民館の床面積ではできないような、サービスを提供する通いの場としての活用を想定している。</p>

E 委員	<p>生活圏域で通える場所を想定するのであれば、北部に市民センターが少なく、偏在性があることが少し気にかかる。</p> <p>老人クラブの方とお話する機会があったが、クラブの名称に老人とあるため、加入しないという方も一定数おられるようであった。新たな活性化と合わせて、姫路市独自の名称を考えてもよいのではないかと感じる。</p> <p>通いの場の問題点として、男性の参加者が少ない点が挙げられる。運動についても、女性に合わせた負荷が低いものとする、男性は参加しない。少し負荷の高い運動であれば、興味を持たれるのかもしれない。男性高齢者をいかに呼び込むのかという視点から、検討していただくことがよいと思う。</p>
B 委員	<p><通いの場への参加理由></p> <p>21 ページをみると、老人クラブは、地域でも多様な活動をされておられるように見受けられる。様々な生きがいがづくり活動に参加する方が、なぜ、参加しているのか。また、参加していない方は、自宅からの距離など、様々な理由が考えられるが、なぜ、参加していないのか。理由などは把握されているのか。</p>
事務局	<p>校区老人クラブの下に単位老人クラブがあり、活動内容の規模感により、校区で活動するのか、単位で活動するのかが分かれる。校区登園やニュースポーツ大会をはじめとする、校区や老人クラブ全体での活動については、生きがいがづくり活動の象徴の一つであるすこやかセンターを活用されている。このような活動についても、老人クラブとして大事にされているが、廃止となった場合はもちろん、大規模改修する場合でも、一時的にしても活動ができなくなる。老人クラブの活動が滞らないよう、市老人クラブ連合会と協議していきたいと考えている。</p>
F 委員	<p><市の目指すべき高齢者施策について></p> <p>資料の3 ページについて、すこやかセンターのあり方検討の中で事務局が意見を聴取したい内容を例示いただいているが、当初のコンセプトである「多くの市民に利用してもらうことによって、多世代間のふれあいの場として活用」と機能しているか、「創造と交流を生む施設」として機能しているかは、重要な視点である。</p> <p>この2 点が機能していないのであれば、今後の方向性も決まってくるのではないかと思うが、少しでも機能しているようであれば、継続という選択肢もあり得る。また、姫路市として、今後、総合事業に取り組んでいくのであれば、地域の環境を整えていくために、投資をしていくという様々な判断基準があると思う。</p> <p>今後、市としては、高齢者の生きがいがづくりや多世代交流は、地域を拠点に進めていきたいという考え方でよい。</p>

事務局	<p>今後、2040 年に向けて、どのように地域包括ケアシステムを深化させていくかが課題となるが、地域の中で、元気なうちから様々な交流ができ、支援が必要となってもつながりが続くようなイメージを持って取組を進めていきたいと考えている。</p>
F 委員	<p>地域の活動の中では、高齢者の方が子育て支援に協力していただいたり、あるいは、ふれあいサロンの場で、障害者の方が障害福祉サービス事業所で製作された商品を販売したり、高齢者の方と一緒に製作したりといった場面がある。通いの場としても、そのような姿が望ましく、また、活動に老人クラブにも協力いただけるようであれば、非常によい話だと思う。</p>
D 委員	<p>キーワードとしては、「通いの場」と「老人クラブ」の 2 つが非常に重要だと感じた。32 ページにあるような場所と高齢者が選べるメニュー、ハードとソフトを両輪として進め、通いの場での様々な活動を広めていくべきであると思う。</p> <p>地域の特性を活かした、姫路市ならではの取り組みを進めるべきだと考えるが、検討に当たり、地域での活動を通して様々な経験や知見を持つ、老人クラブからも提案をしていただければいいかと思う。</p>
C 委員	<p>すこやかセンターという 1 つの拠点を残すということも意義があると思うが、全国的な傾向から、通いの場を地域に落とし込んでいくことが、現実的なあるべき姿であると思う。</p> <p>また、通いの場に通うことができない方を、どのように通いの場に連れ出すということも検討をしなければ、すこやかセンターと同様に、通いたい方だけが通われているだけの施設となってしまう。また、先ほど委員から男性向けの通いの場のメニューという話もあったが、同じく選択肢を増やすことは重要であると思う。通いの場は画一的なものとするのではなく、例えば、地域包括支援センターの職員であれば、地域の高齢者の方が、通いの場でどのような活動をしたいのか、意見を聴取しておられると思うので、それぞれの地域に合った特色のある通いの場を作っていくことができればよいと感じる。</p>
D 委員	<p>今の委員の視点は、重要であると感じる。</p> <p>通いの場に通うことができない方も参加し、日常の状況の話しをするような、顔の見える情報交換の場としていくことが望ましいと考える。</p>

事務局	<p>通いの場に通えない方や、通いたくない方も中にはおられると思う。市としては、他都市の事例等を踏まえて、28 ページから 30 ページにあるような、デジタルを活用した事業を進めることや、終活支援に関する取り組みを、新たに実施している。また、民生委員・児童委員による見守りや、災害時に避難に支援を要する方を把握する災害時要援護者事業、老人クラブ活動の一環としての友愛訪問により、地域とのつながりを持っている方もおられるが、いかに、そういった方々を、通いの場につなげていくかが重要であると考えている。</p>
D 委員	<p>本日も、リモートで参加していただいている委員の方もおられるが、顔の見えるというのは対面だけではなく、オンライン、あるいは、バーチャル空間のようなものも含め、今後、デジタル技術を活用した取組を進めることも重要である。</p>
事務局	<p>先ほど、委員から、通いの場に通えない方についてお話があった。介護保険サービスの総合事業の観点から、高齢者のニーズが高いものとして、移動手段の確保が挙げられるが、市では移動支援サービスの検討を始めている。これは、通いの場に通いたいけど通う手段がない方を対象に、通いの場へ送迎し、その帰りに買い物に寄るようなサービスを組み合わせると、高齢者の方の生活にプラスになる。</p> <p>また、姫路市内でも、移動スーパーが巡回しているが、例えば、移動スーパーと通いの場と組み合わせることで、日常の課題をまとめて解消するような取組が、今後、求められるものと考えている。</p>
D 委員	<p>自動運転に関して、実証実験が行われている事例もあり、今、説明があったような取組と組み合わせれば、効果的に働くのではないかとも思う。</p>
F 委員	<p><身寄りのない高齢者への支援について></p> <p>地域の中で、様々な活動に関わっておられる方は、比較的、元気な方が多いが、関わりたくない方は、確実に一定数おられる。そのような方に少しでも地域との接点を持っていただくために、どのような取組を進めていくかは、非常に大事な点である。現在、単身高齢者世帯が約 25,000 世帯であるが、その中でも、身寄りのない高齢者をどのように支援していくかが、大きな課題である。</p> <p>豊田市のアンケート調査結果を基に推計すると、姫路市では、身寄りのない高齢者が、5,500～5,600 人がおられるため、このような方々を、地域の通いの場で交流していただければ、情報収集や支援につなげることができるのではないかと。</p> <p>仮に、市がすこやかセンターを閉館するという判断をされるようであれば、通いの場での支援に重点を置いていただくような、施策を進めていただければと思う。</p>

C委員	<p><通いの場でのスマホ教室について></p> <p>デジタル化に関して、地域でスマホ教室を開催し、そこから運動教室に通われるようになったという事例もお聞きしたことがある。</p>
事務局	<p>姫路市でも、脳にいいアプリを活用したひめさんぽの導入にあたり、デジタルディバイド対策として、スマホの購入助成とスマホのよろず相談、スマホサロンを実施した。現在の登録者が、5,400人となっているが、中には、スマホサロンに頻繁に通われるリピーターもおられ、地域の居場所の一つとなっている。スマホサロンは、比較的、男性の参加者もおられる。また、グラウンドゴルフ等は、男性の参加者も多いと伺っている。</p>
D委員	<p>それでは、「次第3」に移りたい。</p> <p>「子育て支援施設について」を事務局から説明いただく。</p>
事務局	<p>次第3 子育て支援施設について</p> <p>資料説明</p> <p>資料1 姫路市すこやかセンターのあり方検討について</p> <p>③ 子育て支援施設について</p>
D委員	<p>ただいまの説明について、質問、意見があればお願いしたい。</p>
D委員	<p><ファミリーサポートセンター事業について></p> <p>ファミリーサポートセンター事業について伺いたい。姫路市での依頼会員、提供会員の状況はどのようなになっているのか。</p>
事務局	<p>姫路市では依頼会員が1,735世帯、提供会員が685人、両方会員が119人である。</p> <p>実際にマッチングした件数は、3,208件である。内容については、保育所・放課後児童クラブへの送迎が多かった。また、買い物に行くなどの一時預かりのケースもあった。</p>
D委員	<p>先ほど、2階部分で交流という点がキーワードであったように、この事業を通じて、新たな交流が生まれるような事例はあったのか。</p>
事務局	<p>利用者の声として、60歳以上の提供会員も多いが、「子育てをもう一度楽しむ」という気持ちで援助し、近くのこどもとの関係づくりにつながるといったことをやりがいとしている方もおられる。依頼する方は、依頼される方との信頼関係を築くことができると、とても利用しやすい制度であるとお声もあった。</p>

F 委員	<p><子育て支援事業の地域展開について></p> <p>すこやかセンター事業の今後といった点から、高齢者分野のように、子育て支援の分野についても地域展開を進めるようなイメージはあるのか。</p>
事務局	<p>児童センター、保育所等を含めた地域子育て支援施設として、市内に 24 か所設置しているため、ひろば事業として実施している、交流の場や相談の場の受け皿となり得る。</p> <p>一方で、すこやかセンターのみで実施している利用者支援事業、ファミリーサポートセンター事業や子育て学習支援センター事業については、どこかでは事業を継続する必要があるものと考えている。</p>
D 委員	<p>24 か所の地域子育て支援施設は、先ほど 2 階部分で、説明があった市民センター等とリンクするのか。</p>
事務局	<p>児童厚生施設等を中心に設置しているが、一部施設については、公民館で実施している。</p>
D 委員	<p>多世代交流の促進という観点から、高齢者の通いの場とリンクすればよい。</p>
事務局	<p>市で実施する事業のほか、社会福祉協議会の支部活動として、地域の子育て支援に取り組まれている。互いの事業を併存しながら、取組を進めていきたい。</p>
A 委員	<p><すこやかセンター 3 階での事業の実施体制について></p> <p>24 か所の地域子育て支援施設には、市立の保育所も含まれるのか。</p>
事務局	<p>1 か所のみではあるが、市立の保育所で実施している。</p>
A 委員	<p>すこやかセンター 3 階については、こども支援課が運営しているとのことだが、課自体がすこやかセンター内にあるのか。</p>
事務局	<p>一部の担当がすこやかセンター内で業務を行っている。</p>
A 委員	<p>すこやかセンター内になければならないという理由はあるのか。</p>
事務局	<p>当初、すこやかセンターが多世代間ふれあいプラザとして計画されていたため、老人福祉センターと子育て支援施設を同じ建物内に置くことで、交流が生まれるのではないかというコンセプトから設置したものである。</p>

A 委員	大規模改修で使用できない期間や、仮にすこやかセンターが廃止となった場合、移転するという考え方になるのか。
事務局	すこやかセンターのみで実施している事業は、どこかで継続していくこととなる。
B 委員	<p><子育て支援事業への提言></p> <p>2 階 老人福祉センターの意見交換の中で、高齢者の生きがいという面からのお話しがあったが、子育て支援事業でも同じことが言える。</p> <p>例えば、ファミリーサポートセンター事業では、依頼会員が預けたいと思っても、近くに提供会員がいなければ、利用できないことがある。先ほど、利用者の声として、「子育てをもう一度楽しむ」といった説明もあったが、地域にもっと、このような事業があるということを広げていけば、提供会員が少ないという課題の解消にもつながる。ファミリーサポートセンター事業を介さずとも、地域の支え合いの中で、子育て家庭を支援する仕組みに繋がるとよいと感じた。</p> <p>また、子育て学習センター事業であれば、遊び体験や、講座などであれば、高齢者の方が蓄えておられる知識や、技術が役立てられ、若い子育て家庭とのつながりができるのではないかと考える。</p>
事務局	<p>委員のご意見のとおり、地域の方々に支え合いは非常に重要である。</p> <p>現在、シルバー人材センターでこどもの預かりの事業を実施されているが、例えば、老人クラブの方にもご協力いただきながら、地域で育児の援助ができ、子育て世帯への支援につながるようになれば、大変ありがたいお話であると感じる。</p>
C 委員	<p><多世代間交流の状況、利用者の受け皿について></p> <p>すこやかセンターの設置コンセプトである「多くの市民に利用してもらうことによって、多世代間のふれあいの場として活用」と機能しているか、「創造と交流を生む施設」として機能しているかという点についてだが、今回、市から提示されているデータからは、交流が十分にできているという風には読み取れない。</p> <p>個人的な意見ではあるが、地域の通いの場の中で、子育て支援も、高齢者の生きがいづくりも含めた、多世代交流につながる仕組みづくりができればよいのではないかと感じた。</p> <p>もう一点、すこやかセンターの利用状況が令和3年度以降、横ばいではあるが、利用されている方々の受け皿があるのかという点が気になる。</p>
D 委員	<p>予定の時間がきたため、本日の議事はここまでとしたい。</p> <p>第3回の進め方について、事務局より何か提案はあるか。</p>

事務局	<p>次回、第3回目の会議が最終となるが、第1回、第2回の意見を取りまとめさせていただき、改めてその内容について、審議いただきたい。</p>
D 委員	<p>事務局からの提案について、意見、質問はあるか。 (異議なし)</p> <p>閉会 (17 : 05)</p>